

TOKUYA TIMES

とくや
タイムズ自由民主党
豊橋市議団
個人版

Now

<http://ito-tokuya.com/tokuya>

伊藤 とくや

Summer, 2014, vol.29

5次総 後期計画を好機計画に 第5次総合計画・後期基本計画策定に向けた、これからのまちづくり



29号発行についてのご挨拶

今回のテーマは

－ 第5次総合計画・後期基本計画策定 に向けた、これからのまちづくり－です。

- 今年度から第5次総合計画「後期基本計画」策定がスタート。
- 人口の減少が始まった中、目指すまちの姿の実現に向け、市民一人ひとりが元気になり、まち全体も活気に満ち溢れるような計画、戦略が求められます。
- そこで、6月議会では豊橋の元気のため特に重要と考える以下の点を私は議論しました。
 - 1.『スポーツ振興』
 - 2.『中心市街地活性化』
 - 3.『シティプロモーション』

1. スポーツ振興とスポーツで交流するまちづくり

- 今、国のスポーツ政策に大きな変化が訪れています。
 - H22年に「スポーツ立国戦略」を策定、H23年に「スポーツ基本法」を施行。
 - スポーツ基本法では、「社会全体でスポーツを支える基盤整備」としており、「新しい公共の必要性」と「スポーツプロモーションムーブメント（仮称）の展開」をあげています。
- 2020年に開催される「東京オリンピック」では、
 - 東京にとって1964年に整備した、かつてのオリンピック競技施設やスポーツ関連施設を更新するまたとないチャンスです。
 - 豊橋東三河にとってもオリンピックを活かすとともに、人口が減る時代を迎えて、どの施設を手入れし、どの施設を廃止するのか計画する絶好の機会です。
- そこでまず『スポーツで交流するまち』についての現状を質問。
更には、市のスポーツ施設が空いている時間を活用したスポーツ大会の誘致、オリンピックやラグビーのワールドカップに合わせた事前合宿(キャンプ)の誘致、それらをワンストップで受入出来る『スポーツコミッション』などの体制づくり、スポーツ交流を創出する環境の整備と体制づくり、そして東三河一体で考えるスポーツ施設の集中と選択に基づく整備とマネジメントについて議論しました。
【※詳細はHPからどうぞ！】

2. 中心市街地活性化への取り組み

Q1. 豊橋駅西口エリアの活性化を推進する視点について

- 行政からは、①歩行者と自動車の動線への対応、②観光バス等の待機所への対応、③駅前広場の利便性を図る再整備等の検討を行うとの回答。また、駅西口エリアについての『医療・健康・体育のまち』といったまちのイメージや、『東三河西部への玄関口』についても議論。「新産業育成の可能性も念頭に置いた広く深くしっかりとした緻密な調査を、地域の方々や多くの関係者の方々と一緒に、スピード感を持って検討したい」と約束をしました。【詳細はHPからどうぞ！】

3. 市制施行110周年を節目としたシティプロモーション

- 行政からは、①市制施行110周年は、「次期ええじゃないか豊橋推進計画」の初年度であり、ロケ地応援や豊橋祭りなど既存の事業の拡大をしたい。②「新たな目次や内容の導入、広域連合を見据えた広域的プロモーションの展開、シンポイベントの誘致(例：シティプロモーションサミット)、東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた海外向けのプロモーション活動など、激しさを増す都市間競争に勝ち抜くためのスピード感を持った魅力ある事業の継続的実施が重要」との回答。「ほの国流ライフスタイルの提案・発信」の強化を求めました。
【♥ほの国流ライフスタイルとは、海・山・川・に恵まれた自然環境があり、大都会へもアクセスが良いことから、スポーツをしながら自然を満喫し生活するなどはじめ地域の「住みやすさ」を前面に打ち出した「質の高いライフスタイル」の提案であり、豊橋・東三河の魅力をもっとPRすることで移住・定住人口を増やすという考えです】

－ 第 5 次総合計画「後期基本計画」策定の視点について －

■豊橋市第 5 次総合計画は

- まちづくりの基本理念を『ともに生き、ともにつくる』とし
- 目指すまちの姿を『輝き支えあう水と緑のまち・豊橋』としています。
- まちづくりの大綱には『活力と魅力にあふれ、健やかに暮らせ、心豊かな人を育て、環境を大切に、安心して暮らせ、快適で便利』といった理想の地方都市が表されています。

■しかし、21 世紀の、とりわけ 2050 年までの半世紀は 20 世紀に積み残した課題を解決せねばならない時代と言われています。

- 後期計画の視点は、わが国は少子化と高齢化が加速する中で人口が減少し、日本の基礎がやせ細って行く姿です。持続する地方都市『豊橋・東三河』が主題ではないでしょうか。

－ 例えば、公共施設を例にあげると・・・ －

■創るのみならず、維持することが困難であることが見通される人口減少時代において、公共施設を整備する覚悟を持つ必然性が問われねばなりません。

■必然性において「何故か？」という問いかけに答えられる精緻な概念を実現するための設計が必要であるといわれています。

- ♥街路の要衝となる位置に最も大切な文化施設を配置するのは何故か？
- ♥文化施設が特異な形態をするのは何故か？
- ♥環境・生態系を重要視するのは何故か？
- ♥中心市街地から車を排除し歩行者に開放するのは何故か？
- ♥都市にアートが必要なのは何故か？
- ♥インフォメーションセンターで都市情報を市民に伝えるのは何故か？
- ♥暗渠になった河川を、河川に再生するのは何故か？

など、「何故か？」という問いかけに答えらる、しっかりとした「コンセプトワーク」です。

◆ところで、世界において 20 世紀に積み残した課題として 2050 年までに噴出する問題は『人口爆発』『水問題』『食料危機』『経済のグローバル化』と『都市への人口集中問題』です。

- 50 年後には世界の人口の 70%が都市に住むと言われてますが、わが国においては東京一極集中問題であり、次に大阪、名古屋圏集中問題であって、その結果として地方(都市)の消滅がありますが、わがまち「豊橋」は東三河の中心都市として持続する使命があります。

- 本市は人口 38 万都市でもあるにかかわらず昼夜間人口比率 1.0 を切り「地方中枢拠点都市」になれない状況ですが、周辺の東三河市町村とともに地域の魅力を高め合うことで持続する都市を目指さねばなりません。

◆しかし名古屋駅前の開発には驚きを隠せません。

第 2 トヨタビル、新しく生まれ変わる名古屋ビルヂングなど高層ビルが次々と建設されていきます。

- ◆名古屋はリニア後の東京一極集中を恐れてとのことです
- ◆ですが、本市ははじめ東三河にとっては名古屋の吸引力が脅威です。
- ◆リニア後の新幹線など公共交通の利点を生かす知恵も必要です。☞

■そのひとつが、今回の質問に取り上げましたスポーツ施設、駅西、図書館・広場など『公共空間の整備』と考えます。

- 公共空間は都市が内側に抱えている社会への直接的なプレゼンテーション(表現・提示・紹介)といわれています。
- また公共空間は社会の価値や現実を明らかにする装置です。
- そして装置を動かすには、人や組織が、戦術や戦略が必要となります。
- 地方都市が「都市の不都合」や「パフォーマンスの低下」を理由に衰退時代であっても、「豊橋」は東三河の魅力をつくり続けることが求められます。

－ 市制施行 110 周年以降のまちづくりの取り組み方針となる「後期基本計画」の策定に、どのような視点を持ってあたるのか －

企画部長答弁要旨

■第 5 次総合計画策定時から今日まで、市政を取り巻く環境は大きく変化してきています。特に人口減少局面への対応や大規模災害への対応など、深刻な行政課題が山積しており、これらの課題の多くは、スポーツによるまちづくりや、まちなか図書館の整備と同様に、行政分野の枠を超えた対応が必要となってきています。

■そうしたことから後期基本計画の策定においては、**従前の枠組みに捉われない革新的な視点と、選択と集中による戦略的な視点がこれまで以上に大切**になるものと考えています。また、後期基本計画の期間は**広域連合**の存在が前提となることから、政策立案においては、本市だけではなく東三河全体を視野に入れた広域的な視点も一層重要になるものと認識しています。

■後期基本計画は、市制施行 110 周年となる平成 28 年からのスタートとなります。これを機に、今一度「ともに生き、ともにつくる」という基本理念を認識し、市民と一体となって、総合計画に掲げた目指すまちの姿の実現に向け取り組んでいきたいと考えています。

まとめ

■前の枠組みに捉われない革新的な視点と、選択と集中による戦略的な視点がこれまで以上に大切とのこと。

#まちなかスポーツ施設、駅西、図書館は、それぞれ都市の「ツボ」。

そのツボは単に人を引き付ける拠点としてだけではなく、周辺に波及効果を与え、活力ある地域のための「ツボ」でありつづける装置であってほしい。また本市を唯一の「One and Only」なものとしてほしい。

#シティプロモーションは「人」「人と人のつながり・組織」。

都市競争に打ち勝つための魄を決した覚悟と、余裕そして洒落のある「人」「人と人のつながり・組織」である。

? それでは、持続する都市を目指して行政は何をすべきなのでしょう？

スポーツ振興計画の「生涯スポーツ」、中活まちなか図書館の「生涯学習」、ぴんぴんころり「生涯現役」、年金問題「生涯雇用」といった課題の対応・・・目指すは、**一生充実した生活が営めるとともに、次世代に引き継ぐことのできる持続する都市豊橋・地域東三河の構築**であるとおもいます。

♥**厳しい時代だからこそ後期基本計画策定を好機【chance】計画に!**

♥**しっかりとした個々の計画立案、財源調整、推進組織を期待いたします☺**

あとがき 豊橋東三河への Good Information!

今回の質問では、人口減少局面への対応や大規模災害への対応など、深刻な行政課題が山積との答弁がありましたが、この春より豊橋技術科学大学学長に就任された大西学長は日本学術会議会長なども兼務されており、ごく身近に人口減少局面への対応や大規模災害への対応などの行政課題へ良きアドバイザーを得ることができました。

市政報告会のお知らせ

日付 平成 26 年 10 月 7 日 (火)
時間 18 時 30 分より
会場 カリオンビル(松葉町二丁目)
お気軽にお越しください!



発行

伊藤とくや事務所
豊橋市松葉町 3-68
FAX : 0532-56-5521
TEL : 0532-53-4556
bbito@mx1.tees.ne.jp
携帯 : 090-3855-9696